

松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第22回〕会議録

1. 附属機関等の会議の名称 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第22回〕

2. 開催日時 令和4年6月27日（月） 19時00分から21時00分まで

3. 開催場所 松川町中央公民館 2階 えみりあホール

4. 出席者氏名

【松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員】※敬称略

知久克志、新井正彦、稲福博幸、村田肇、矢澤登、唐沢寛文、下澤義彦、米山俊孝、川瀬八十治、黒澤哲郎、寺沢秀文、高坂龍夫、松下敏章、矢澤良一、熊谷宗明、熊谷誠、神田葉子、松浦善文、西尾明廣、北原俊秀、寺沢茂春

【JR 東海】

中央新幹線長野工事事務所 杉浦所長、太田垣課長、齋藤主任、工藤主席
// 大鹿分室 水上室長、水野主任

【高森町】

高森町役場 産業観光課 野沢課長、秋田係長

【長野県】

飯田建設事務所 リニア整備推進事務所 宮島企画幹兼次長、田中課長補佐

【役 場】

宮下町長、岡田副町長、小沢課長、片桐係長

5. 議題

(1) 前回対策委員会の質疑に対する回答

(2) 発生土運搬状況について

1) 高森町より

① 下市田産業用地整備事業について

2) JR東海より

① 大鹿村内リニア工事進捗状況

② 発生土運搬車両の運行状況

③ 7月以降の伊那インター工業団地への運行計画

④ 上赤須廃棄物置場跡地整備への運行計画

3) 質疑応答

6. 非公開の理由（会議を非公開とした場合）

—

7. 傍聴人の数

9人

8. 会議資料の名称

- ・会議次第（町作成）
- ・別冊資料1（高森町作成作成）
- ・別冊資料2（JR 東海作成）

9. 会議の概要

- （1）開会
- （2）あいさつ
- （3）会議事項
上記のとおり
- （4）その他
松川町のリニア関連事業について
- （5）閉会

10. 会議録

（下澤副委員）

皆さん、こんばんは。1年のうちでも一番日の長い時期でございます。そんな中、早い時間よりお集まりいただきありがとうございます。それでは、ただ今から第22回松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会を開催いたします。よろしくお願いいたします。

（小沢課長）

それでは2番のあいさつに移らせていただきます。まずは、黒澤委員長お願いいたします。

（黒澤委員長）

皆さん、こんばんは。ニュースで耳にしたわけでありますけれども、関東甲信越が梅雨明けというような、そんな報道を耳にしたわけでありますけれども。非常に暑い中、連日暑さが続く中、皆様お疲れのところ、対策委員会にご参集いただきまして、ありがとうございます。本日、事務局よりお話がありましたように、選挙の関係で役場が使えないという事で、えみりあホールというところがございます。終了の時間に制限があるということがございますけれども、その中で進行にご協力いただく中、ご忌憚のない意見をいただければありがたいかなと思っているところであります。

本日の会議の中心は、今までの対策委員会にご意見いただいたことに対する回答という事で設定させていただいたという会でございます。良い回答が得られると楽しみにしているところでありますが、また本日もよろしくお願いいたします。

（小沢課長）

続きまして、宮下町長お願いします。

（宮下町長）

皆さん、こんばんは。まずは、松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会、大変お忙しい中お集まりをいただきまして、ありがとうございます。今、委員長からもありました、本日梅雨明けという

話と同時に、先ほど長野県内南信州地域またレベル2に戻ってしまったというような話ももらいました。感染症対策に気を付けながら会議を進めたいと思います。ご協力お願いいたします。

また、先ほど委員長からもありました、回答の話と加えまして以前からJRから求められております台数を増やしたいという話についての本日は協議となっております。その話を受けて、昨日、住民説明会を開かせていただきました。その中でも、やはりまだ不安な気持ちもというようなご意見いただいております。また、本日はそれに合わせて、高森町の公共工事の事業につきましても説明があるとのことですので、よろしくお願いいたします。

また、一つご報告ではありますが、以前から求められておりました上新井交差点の低減について、竜東は使えないのかというお話がありました。先日6月23日に豊丘村で説明会が行われまして、70台程度協力していただくというようなお話をいただいております。これを受けまして松川町では今後、福与、馬坂、松川自治会説明をして、ある程度話が整い次第、そっちを使わせていただいて。今本当に上新井の交差点、集中しておりますので、そこを分散させていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(小沢課長)

それでは、JR東海より中央新幹線長野工事事務所、杉浦所長お願いいたします。

(JR東海/杉浦所長)

皆さん、こんばんは。JR東海 中央新幹線長野工事事務所長の杉浦禎信と申します。本日は、我々から説明させていただける時間を頂戴いたしまして誠にありがとうございます。また、日頃より中央新幹線建設にご理解ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

我々は今、中央新幹線を一生懸命作っているわけですが、改めてこの中央新幹線事業というのは、東京・名古屋・大阪をリニアで繋ぎ、3大都市圏を一体化するという事で、日本全体を活性化するという目的があり、飯田に駅ができ、この松川町にとっても東京や名古屋に行くのに、今まで凄い時間がかかったのが大幅に短縮できるということ、例えば、今までは巡り合えなかったような人に巡り合えたり、人生を飛躍させるようなチャンスを掴むきっかけに巡り合えたり、今までは受けることができなかったような医療を受けられるようになったりと、色んな方々にとってもプラスの面があるという、夢や希望がある素晴らしい事業だと理解しています。

ただ一方で、これを造る段階や造った後であっても、例えば、住み慣れたお住まいを移転していただかなければならない方がいたり、この松川町であれば、今までよりも多くのダンプや工事車両が通過することで、実際に危ないという思いをされる方もいたりするかもしれないという、マイナス面がある事は認識しております。

我々としては、そのマイナス面をできるだけ小さくするように心がけますが、そうは言っても、なかなかそのマイナスがゼロにならないという事もあるというところです。我々としては、皆様からのご意見をしっかり聞いて、できることはしっかりやる、できないことはなるべくできるようにできる方法を考える、それでもやっぱりできない事は残ってしまう。そうした時は、丁寧な説明を心がけて皆さんにご理解していただく、あるいはご理解を深めていただくということを丁寧に進めていくということが肝心であるというふうに理解しております。

本日も丁寧な説明を心がけますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(小沢課長)

続きまして、長野県より飯田建設事務所リニア整備推進事務所、宮島次長お願いします。

(長野県/宮島次長)

皆さん、こんばんは。飯田建設事務所リニア整備推進事務所次長の宮島俊でございます。この4月に着任しまして、今日初めて皆様にお目にかかります。今後ともよろしく願いいたします。

対策委員の皆様におかれましては、日頃より長野県の建設行政にそれぞれのお立場でご理解ご協力を賜りましたことをこの場をお借りしてお礼申し上げます。また先日は、JR東海さんが山梨県実験センターで開催しました試験立会に、県を介してお声がけしたところ、ここにいらっしゃる委員の皆さん12名にご参加いただき、リニア中央新幹線に対するご理解をより深めていただけたのだと思っております。ありがとうございました。

また、松川町さんにおかれましては、短期間での乗車される方の取りまとめや、当日の添乗にご協力いただき感謝申し上げます。リニア関連工事に関しましては、今日の会議事項の他にも様々課題があります。県といたしましては、地元の安全安心を最優先に考え、地元へ寄り添いながら、引き続き松川町さんをはじめ地元関係団体や関係市町村等と連携して、JR東海、JV、関係機関等と調整を図ってまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。本日はお疲れ様です。

(小沢課長)

資料の2ページにあります対策委員の委員構成であります。南信州まつかわ観光まちづくりセンター理事長の宮下彰さんが、本日の総会におきまして退任をされまして、北沢公彦さんへ引き継がれましたのでご報告を申し上げます。本日は所用で欠席でございます。

それではこれより会議事項に入りますが、対策委員会設置要綱第5条に、会議は委員長が議長となるということから、黒澤委員長の進行でお願いいたします。

(黒澤委員長)

はい、それでは会議事項に入ってまいりたいと思います。よろしく願いいたします。

(1)、(2)とございます。質疑応答については、(1)、(2)の説明を終えた後で、まとめてお願いしたいということでございます。(1)の質疑に対する回答と、(2)の発生土運搬についての説明の内容が、関連性があるということですのでご協力をお願いしたいと思います。

それでは「(1) 前回対策委員会の質疑に対する回答」から進めてまいりたいと思います。資料は4ページだと思いますが、JR東海さんの方から回答をお願いいたします。

JR東海：工藤主席説明

松川町役場：小沢課長説明

長野県：田中課長補佐説明

(黒澤委員長)

ありがとうございました。

回答については以上であります。関連いたしますので続けて、(2) 発生土運搬についての説明をお願いしたいと思います。1) 高森町よりという事で説明をお願いいたします。

高森町：野沢課長、秋田係長説明

（黒澤委員長）

それでは次に、JR東海さんより説明をお願いいたします。

JR東海：工藤主席説明

（黒澤委員長）

はい、それではひと通り回答、それから説明をいただいたわけでございますけれども、これより質疑応答に入ってまいりたいと思います。ご発言ございませんでしょうか。はい、新井委員さん。

（新井委員）

はい、上新井区会の新井です。上新井の交差点についての関係ですけれど、当初伊那インター工業団地へ運んでいくのが1日40台、それから下市田工業団地へ運ぶのが150台、両方合わせて190台が上新井の交差点を通るということでスタートしたんですが。今回、昨日の説明会にもありましたように洞新線が工事の着工が遅れたことによって、そこで20台増えますという話をいただきました。そして、今日下市田工業団地の150台が9月で終わる予定が終わらないと、引き続き、まだ3か月は残るといってお話です。そして、下市田工業団地からの帰りのほうが新宮ヶ瀬橋を通過して上新井の交差点に関係するということなんですが。当初の計画からかなり色々なことがずれたりしてですね、色々変更になる場合には、必ず住民の同意というか説明会が必要だと思えます。それで上新井の交差点と、今回の下市田工業団地について、ぜひ住民説明会をきちんとやっていただきたいというお願いが一つ。それから、下市田工業団地から帰ってくる時に、新しい道路、新宮ヶ瀬橋を通りますと、あの道結構いい道なのでスピードが出ますので、町道からおりてきた交差点で事故が発生する可能性が高いと思われますので、前々から地元の自治会からも提案があると思えますが、改めて信号の設置というようなことを検討していただければというように思っております。また、今日は駒ヶ根のほうの台数、駒ヶ根の土を運ぶのを、高森の150台の中に含めて新たに発生するという話を聞いたんで、これをですね、どうやって台数を調節するかきちんとそこらへんを対応していただければという事で、いくつかお願いを上げさせていただきました。

（黒澤委員長）

3点ほど要望を含めて。JRさんのほうでお答えは。住民説明会の要望、それから信号の設置等については協議が必要かと思うんですけど。ご回答お願いできますか。

（JR東海／太田垣課長）

JR東海中央新幹線長野工事事務所で担当課長をしています太田垣と申します。

1点目の下市田へ持っていく車両の計画変更も含めた説明会の開催要望だと思えますが、高森町の事業ですので松川町とも調整をして、また協議させていただければと思えます。それから、新宮ヶ瀬のスピードの件ですが、これも町事業での運行という事でございますが、スピードを出しすぎないように注意して運転をしていくという事でございます。

駒ヶ根につきましては、昨年7月の住民説明会でも、予定という事でご説明させていただいております。ただ、下市田の運行と重なってくるんですが、トンネル掘削による量、1日あたり大鹿から出る量は、極端に増えるものでもありませんので、150台を超えないようにと説明をさせていただいております。その台数の中で調整をさせていただければと考えております。

(黒澤委員長)

松川町として対応できることはございますか。小沢課長。

(小沢課長)

伊那に持っていく説明会は、昨日させていただきましたので、それで住民説明会をしたという形でお願います。それから高森町の運搬の説明ですけれども、福与の皆さんには7月16日の土曜日に説明をさせていただきます。それは、全員が集まると、やはりコロナの関係がありますので、関係の役員の方に集まってもらう説明会になります。そこには高森町さんに行ってもらいます。福与は4自治会ありますので、自治会長に今現在説明してありますので、自治会の中で話をさせていただいて、出た問題を持ち寄って16日に説明という形になっております。それから、上新井に関しましては、ダンプが通る自治会が、馬坂と松川自治会であります。自治会長に連絡しまして、先週23日に私が豊丘に行ってお願いをしてみました。結果的にこういうふうになりましたよと言ってあります。ダンプが通るだけでしたら、そのように今言った馬坂と松川自治会との話でいいのかなと思ったんですけれども、期間が延びるという事は上新井の皆さん全員に該当しますので、上新井の皆さんの中を踏まえて馬坂と松川の自治会と一緒に説明会を開く予定であります。日にちは7月19日、連休明けの日という事で進めさせていただきたいと思っております。それから、信号機の関係ですけれども、七楯神社からおりてきまして県道とぶつかる所ですが、止まれの表示がないものですから、車がそのまま行って事故になるというようなお話も聞いております。町のほうも建設水道課のほうでそこらへんは何か要望するようなことを考えているようでございます。細かい話などは聞いておりませんので、申し訳ございません。それから信号機のほうですけれども、これに関しましては町のほうからも信号機が必要という事で、総務課を通じて県のほうに要望という事でございます。

(黒澤委員長)

はい。新井委員さん。

(新井委員)

はい、わかりました。町道から広い道に出るところ、右側が非常にカーブになっておりまして、これも非常に見にくいので、本当にスピード出してきた車が交通事故になる可能性が非常にありますので、ぜひもう一度、前々からお願いですけど信号の関係の設置をお願いできれば、改めてお願いいたします。

(黒澤委員長)

はい。非常に危険だという事で、是非ともというご発言でございますので、町のほう対応お願いしたいと思っております。他にご発言ございますか。村田委員さんどうぞ。

(村田委員)

はい。大島区長の村田であります。一件お願いしたいと思っておりますけれども、私今年度からという事で参加させていただいているんですが、前回お話を聞いていました。こういった変更等が出ていますので、ぜひ関係者のみの通知とかそういうものじゃなくて、全体、要するに松川町の全戸配布まではいかないんですが、組合回覧ぐらいまでは変更の都度出していただいて、今こういう状況だよという事を周知徹底していただければありがたいなと。やっぱり、関係者は当然ですけども、ちょっと離れた方もおいでになるわけですが、道路を通らないというわけじゃなくて通るわけですから、カレンダーもぜひ付けていただいて、観光農園も非常に多いわけでございますので、そこら辺の方々の対応も含めて、ぜひそういったカレンダーも配布していただいて、全戸配布はなかなか大変かと思いますが、出来ればそれでいいんですが、最小限でも組合回覧ぐらいはしていただきたいという事で、お願いしたい。全戸配布していただければ尚いいですが、そこら辺の見解をお願いしたいと思っております。一回だけじゃなくて、運行ごとそういった状況を判断する中で、随時出していただくと大変ありがたい。やっぱり町民が共有するという事が大事でありますので、是非ともそんな点お願いしたいと思っております。以上です。

(黒澤委員長)

ありがとうございます。住民周知についてのご意見をいただいたわけでありまして、先にJRさんのほうからお願いいたします。

(JR東海／工藤主席)

ご意見ありがとうございます。計画の周知につきましては、運搬開始前に全戸配布で周知してまいりました。その後も、組合回覧という形で計画を周知させていただいております。今後につきましても、組合回覧等のツールで、変わったことがあれば変わったということを皆様に周知できるようにしてまいりたいと思っております。引き続き、よろしくお願いいたします。

(黒澤委員長)

それでは続けて町のほうから。宮下町長。

(宮下町長)

はい、ありがとうございます。大島区長のおっしゃるところ、大変もったいな事でございますので、しっかり周知をしたうえで変更していくということを、町の方からもJRに強く求めてまいります。よろしく申し上げます。

(黒澤委員長)

村田委員さん、よろしいですか。

(村田委員)

はい、ぜひよろしく申し上げます。

(黒澤委員長)

はい、それではほかにご発言ございますか。矢澤委員さんどうぞ。

(矢澤委員)

インターで、伊那の工業団地120台、そして駒ヶ根で11月からは80台、足すと200台が国道を使う事になるわけですが、そうなると鶴部の信号は200台帰りの車が通って、鶴部線へ40台おりて、鶴部から洞新線までの間に150台通る。洞新線を40台おりて120台が上新井という事は、駒ヶ根の運搬が始まると、この道路が非常に混雑することが危惧されます。そしてもう一つは、行くときに洞新線を40台あがってきた車が右に曲がって小松川橋に行くわけです。そこへまた40台が加わってくるわけで、ここらへんが非常に今度は心配される場所なんではないかなと予想されるので。そこらへんまだ時間がありますので、今後多く車が通るという事を踏まえて安全対策等々を検討いただければありがたいなと思います。以上です。

(黒澤委員長)

はい、台数増加によって非常に洞新線と国道それから鶴部間等の車両台数の増加によって心配されているという事でありますので、JRさんいかがでしょうか。

(JR東海/太田垣課長)

JR東海の太田垣です。ご意見ありがとうございます。今回の伊那インターから120台戻ってくるのと、駒ヶ根上赤須からの分について、昨年7月時点からこういった計画になると考えておりました。それを踏まえた形で、安全対策をさせていただいておりますが、実際に走り始めて不都合な点が出てきましたら、そこは改良してまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(黒澤委員長)

実際の状況を見てという事と。

(JR東海/太田垣課長)

一旦は対策をさせていただいたところの上で、という事です。

(黒澤委員長)

実際にはまだ走行していないわけですが、以前シミュレーションというか、これだけ通ったらどんな感じになるかをJRさんに示していただいた、東浦の通行についてそういう経緯があったかと思えますけれども。走り始めたらえらいことになったという事では、困るかなという事でのご心配のご発言かと思えますけれども。矢澤委員さん、どうですか。

(矢澤委員)

確かに、走ってからっていうと心配な面があるんです。というのは、もう一つ心配な面があるのは、洞新線、護岸線の工事ができて、あそこの道路を運行始めると非常に小松川橋をあがるときには、行く時には右へ曲がり、そして渡って左へ曲がったりという事で、非常に今でさえ国道と護岸線がぶつかるところの交差点が、信号もないし国道に出てくるのが大変な状況があるので、そこへまた台数が増えちゃうとちょっと心配な面があるので、実際走ってからというのは心配なので、そこら辺の現状

も見ながら検討をお願いしていただければと思います。

（黒澤委員長）

現状もなかなか護岸線から国道に出られないとか、なかなか交通量が多いというのがあるんですけども、現状は認識されているんですか。JRさんいかがですか。

（JR東海／太田垣課長）

護岸線については、小松川橋のある国道から左折して入るんですが、どちらかという新しく2車線化する洞新線から国道へ右折しなければいけないところが、私ども一番心配しているところでございます。道路設計では、警察にも見ていただき、安全な交差点の設計はしておりますが、もう少し時間がありますので、安全に走れるように検討を深めていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

（黒澤委員長）

洞新線から国道へ右折するところは、信号機の設置の予定はないわけですか。

（JR東海／太田垣課長）

今のところは信号機の設置は無い予定でございます。

（黒澤委員長）

現状では藤森の信号なので、信号機がある中で、ダンプが出入りしているわけですがけれども、洞新線ができた場合の信号機はまだないという状態で、右折するところ。現状と予定が見えてきたかと思いますが。矢澤委員さんいかがですか。よろしいですか。

町のほうはこの部分について回答はございますか。心配されておりますが。

（小沢課長）

はい。洞新線ができましたら国道のところ右折するのが一番心配なのかなと思います。ここに関してはJRさんとよく検討してどういうのが安全対策になるのか説明をしたいと思っております。

それから護岸線、上からおりてきて国道にぶつかって、左折はいいんですけども右折がなかなかという事でございますけれども、ダンプがこれから通るようになりますのでどのような形で安全対策ができるか調べたいと思っております。それと、先ほど言いました洞新線と交差点のぶつかった所の信号機なんですが、警察のほうには信号機の設置はというような話はしていただいております。よろしくお願いたします。

（黒澤委員長）

はい、状況を見ながらという事と、カーブミラーの設置、信号機については要望していくという回答でございます。他に発言はございますでしょうか。はい、高坂委員。

（高坂委員）

本日からJAの選出という事でお世話になります、高坂と申します。私は福与区でありますので

高森町の事につきましてお聞きします。23日河野区の話がされたと思います。私が危惧しているのは、豊丘村は村道であること、農繁期を迎える、サイクルロードのコースであるというなかで、河野区ではどういう話があったのか。調整中という説明だったが、それらの課題を解決する調整中であるのか、条件付き賛成であったのか。

(黒澤委員長)

それでは高森町さん、お願いします。

(高森町／野沢課長)

はい。ご質問ありがとうございます。23日の晩には私がお邪魔させていただきましてご説明を申し上げます。その中で、ご参加の皆様からお声が出ましたのは、まず通ることについては反対という事は出ていなかったと認識しております。ただ、その中で一部、カーブで見通しが悪い箇所がある、そこにちょうど村道として合流する箇所があるので、その所を運転手に十分注意していけるのかというようなご質問はいただきました。それに対しては、運転手なども危険箇所ですし、その他に道中に行われますその他の公共事業などもあり得ますので、そういった工事の施工情報などを共有していただくという事は徹底してまいりたいという事でご説明させていただきました。また先ほど、速度ですとか交通マナーといったことはご心配の中にもあるかと思えますけれども、そういったものについても繰り返し、繰り返し運転手には周知をしながら安全教育には徹底してまいりたいと考えております。そんな中で豊丘の皆様には、特段の反対もなくご了承いただけたのではないかと認識しております。以上です。

(黒澤委員長)

高坂委員どうぞ。

(高坂委員)

分かりました。地元の話し合いの参考にします。

(黒澤委員長)

それでは、他にご発言ございますか。米山委員。

(米山委員)

それでは、お願いします。今、上伊那のほうから上赤須と中沢の関係が駒ヶ根のほうから入ってくるわけですが、ちょっと遡りますけど、5月31日にやりました第21回リニア対策会議。これを出ている意見なんかは、運行体制以外のことはほとんどが当時からずっと出された提案事項なんです。私は当時から出てきた内容につきましては、全部、まだ要望として生きているものと思っているんですが。そんな中で11ページについてお伺いしたいんですが、当初私たちの要望の中で、渡場の交差点から北上するルート、具体的に言えば渡場の交差点を北上して天の中川橋に抜けるルートの県道の、上新井につながるわけですが、県道の整備をしていただいてそちらのほうへ上伊那に行くものについてはルートを利用させていただきたいと。そういった要望を出していたわけでございます。そんな中で、先般あの地域ちょっと通ってみましたら工事が始まっております、確かに。ただそれに関

するものかどうか確定したわけではございませんけれど、供用開始になればその所に上伊那の一般ルート153号線ルート。上伊那のほうにつきましては下の道路を利用させていただきたいというのが願いです。そういうような事を、これでいきますと10ページ運搬期間が11月～2月となっておりますけれども、あそこの工事予定を見ましたら、1月までかかりそうな事だったんですが、ぜひこれに合わせてというのは難しいかもしれませんが、土木工事というのは早く出来たなんというのはまずなくて、遅れたという話ばかりですけれども、何とか間に合わせていただいて、そちらのほうを通しただけければ、いろんなところもひとつずつ無くなってくるんじゃないかなと。この松川町に対して、そんなふうに感じるところもあるんですけども。よろしく願います。

(黒澤委員長)

はい、ありがとうございます。上伊那への搬送については、ぜひ渡場・中川村経由というような要望が出ていたという事で、少なくとも進捗状況なり予定なりを併せて説明いただけると理解が得られるかなと思いますが。JRさん。

(JR東海/太田垣課長)

進捗状況は、県の方に説明していただくことになろうかと思えます。

私どもはおっしゃっていただいたご意見、ご要望はしっかり承知しております。そのために、中川村の県道北林飯島線の工事を県にさせていただいており、私どもも協力させていただいております。今、工事をしている最中でございます。工事完了した際、こちらを通行することについては、関係する地域がございますので通させていただく事について協議をしていきたいと思えます。ただ、上赤須に持って行く期間は、少し早いものですから、ここにはちょっと間に合わないかなと思っております。

今後、また上伊那地域での置き場が具体化したところで、持って行くことになった時には、そちらのほうも通るような形で協議してまいりたいと思えますので、よろしく願います。

(黒澤委員長)

はい。工事のほうは長野県さんがやられているという事だと思えますけれども、JRさん進捗状況についてはJRさんをお願いをしているという松川町を通らないルートでお願いしたいという事で要望を出しているという事もありますので、進捗状況は分からないでは困ると思えますので、随時県さんから情報を得るなり話を持っていただきたいと思えます。

(JR東海/太田垣課長)

承知しておりますが、本日は長野県の方がいらっしゃるので、長野県の方からご説明いただくのがいいかなという意味で申し上げた次第でございます。

(黒澤委員長)

それでは、状況はよくJRさんとしては把握しているけれども、来ていただいているので長野県さんのほうから説明いただくという事でよろしいですね。それでは、長野県さん説明のほう願います。

(長野県/田中課長補佐)

はい、リニア整備推進事務所の田中です。この事業に関しましては、上伊那ですので伊那建設事務所のほうで行っております。現在、二つの工事で行っております、川側の工事、山を切る工事を行っておりますが、まだその工事が全てではございませんので、また新たな工事も発注していきます。今の完成の目標としては、5年度の下半期に完成する目標で今現在やっていると聞いています。よろしく願いいたします。

(黒澤委員長)

米山委員さん、どうぞ。

(米山委員)

そうしますと、上赤須に行くのは今年の暮れから来年のはじめという事ですから、とても間に合わないというようなことになるわけですかね。具体的に言えば、このことにつきましては先ほどの話になりますが、田島の川とかああいう所へ持って行くものという感じで使うご予定というか、そういうことですかね。少しでも工事を速めていただいて、なんとか少しでも153号線に回るものを減らしていただくという事を心がけていただきたいと思うわけですが、いかがでしょうか。

(黒澤委員長)

JRさん、どうですか。

(JR東海/太田垣課長)

かしこまりました。おっしゃることについては、私どもも一生懸命頑張ってまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(黒澤委員長)

よろしいですか。それでは、他にご発言ございますか。

(寺沢委員)

松川町増野に住んでおります、寺沢と申します。総体的なことでお聞きしたいんですけども、6月25日付の南信州新聞の発表で、大鹿村協議会が9日に話をして、その中で既に、高森町さんいらっしゃいますけど、12月までやるよという事から台数も増えちゃったりとか、すらっと通ってっちゃってるんですけど。町の町長、それから課長はその事は知っていたかもしれませんが、昨日そのことを私質問しまして、高森町の事だからそれは松川には関係ないというようなニュアンスで太田垣さんがおっしゃいましたけど、私は大いに関係あると。という事は、新井の交差点で本当に困っている。で、また台数が12月まで延長。

それから、トップ会談なのか松川町長と豊丘、高森でお話を、結局は宮ヶ瀬から生田を通してそれから豊丘へ抜けていくという話は先ほどもありましたけれども、そういった経過の中でそれだけ台数が増えているという事に、そういうのはすらっと通っていつているという事で。先ほど新井区の皆さんも、直接的に関係する方はちゃんと説明会やってくださいよという事で、住民説明会ですよ。昨日の町民説明会も、前回の対策委員会でも出て初めてようやく1回だけやったという事で。しかしその中で、なかなか意見が出なかったという事で、それはそれとして、非常に見切り発車的なやり

方をJRさんはやっているという事で、非常に私遺憾に思っておりますので、基本的に言いたいことは、昨日も申し上げた。

飯田駅に1時間に1本しか止まらないリニア。そのために、大鹿村、もちろん松川町、みんなが苦勞してこのような会合を持っていただいて、大変な苦勞をしている。もちろん私は前から言っているけどリニア反対派ではありませんし、この間リニアに乗せていただきました。だからと言ってそれはそれとして、今後のリニアを問題はきちっと整理して追及していかなければいけないという事で、具体的な質問として私は言っていないんですけど、そういった見切り発車的なやり方、浸透しているのは、私は非常に遺憾で、それぞれが皆様が細部にわたって細かい事を、細かい事って一番大事なことなんですけど、言って、総合的なことは言わないので、私はそういう見地から言わせていただいた。

ですから、私も細かい事を言わせていただいて、新井の環境測定やるという事ですけど、内容はこの前対策委員会でもお願いしましたが、騒音と振動もやってくださいよと。町はできないからJRやってくださいよという事でしたが、ここには環境測定っただけしか書いてございませんが、そういう事。

それから新井交差点が非常に困っているという事で公安委員会、県にもお願いしたけど、感応が機能していないという事です。昨日の説明会の時に、そのかたが言うには感応しないという事はなかなかうまくいっていない。今後、公安委員会が現地視察してどのようになっているか調べるという事でしたけど、それはいつまでにやるのかという事がないと、また同じことの繰り返しになると思いますので、そういった事でどうも取り組みが、松川町や大鹿村がそういった負担をしているにも拘らず、どれだけ我々にとって1時間に一本の飯田駅に止まる効果が出るのか。国全体では、すごい経済効果だと思いますけれども、それは大都市のことで、国が応援している事業だから当然私は反対する事じゃありませんけれども、JRは3兆円のお金を国から一般ピープルを通して融資によってやるというふうにも聞いております。そういった大きな狙いはわかりますが、私たちは、ある意味被害を被っているという事です。効果が、先ほど長野工事事務所長さんおっしゃいましたけれども、明るい未来で楽しい所へ行ける、病院にも早く行ける、いろんな事を言ってくださいですけど、果たしてどうでしょうか。大鹿村なんかどうしたって反対したくなりますよ。私は反対してませんけど。そりゃそうです、メリットよりデメリットのほうが多い。松川町にもっと寄り添って、極端なこと言えばもっと優遇してください。優遇して当たり前じゃないですか。私はそれを昨日も思いましたし、今日も思っております。以上、よろしく申し上げます。

(黒澤委員長)

はい、ありがとうございます。思いを込めて発言いただきましたが、細かい部分についての質問がありました。環境測定の具体的な部分と、信号機機能の調査についての2点であります。まず、環境測定の具体的な部分についてJRさんからお願いします。

(JR東海/太田垣課長)

寺沢さんの色々な想いは、昨日もお聞かせいただきました。私どもは、リニア事業というのは、日本の大動脈輸送もそうですが、地域にも必ず良い活性化のような効果があると信じて事業を進めております。一方で、色々な方に工事の影響等でご迷惑をかけているという事も認識しております。私どもは、少しでもそれが少なくなるように対応してまいりたいと思っておりますし、丁寧な説明をしてまいりたいという考えでございます。

環境測定ですが、おっしゃっていた大気質の他に騒音と振動も測定させていただきます。よろしくお願いいたします。

(寺沢委員)

騒音と？振動もやれる？

(JR東海／太田垣課長)

はい。

(黒澤委員長)

信号機のほうは長野県さん、よろしくお願いいたします。

(長野県／田中課長補佐)

リニア整備推進事務所の田中です。先ほどの、上新井の所の信号機の感応の話をして、私のほうで現地を確認していただくようお願いするという事は言ったんですが、調整できるかどうかというのは、今でも一方向だけ感応式で時間をあげる場合においても限度があると聞いておりますので、現地は見ていただきますが、調整できるかどうかというのも公安委員会さんのほうでご相談してからになりますので、よろしくお願いいたします。

(寺沢委員)

信号機でございますけど、調整はできると思いますよ。私は街道筋ずっと北から南へ通る道と、横線の信号機というかそういうところを通っていて、県道というか町道というか横線が竜東で一番大事な道は長い時間通れる信号になってるんですよ。今までそんなに長くなかったのが、最近ここ2・3年かな、4・5年かな、ちょっと長くなっちゃって、我々はしっかり待たされる。それはどうしてかっていう事は、大物流をたくさん通す、合理的に通すためにそういうふうに信号がなっている、調整してあると思うんです。ですから、今の新井の信号は北から南への大物流も大事ですけど、リニアの、一番困っている渋滞の発生源じゃないですか。そこを調整できないって県のかた公安委員会に話を聞いたことないんですか。

(黒澤委員長)

はい、長野県さんお願いします。

(長野県／田中課長補佐)

現地のほうを公安委員会さんとまた調査させていただいて、調整できるかどうかご回答したいと思います。よろしくお願いいたします。

(寺沢委員)

今の時点でそれは遅いです。どういう状態が起きているか調査すべきじゃないですか、県は。公安から来てもらってこんなに困っているよという事を、最初から織り込み済みで調査すべきじゃないですか。なんでそんな今言っているんですか。遅いですよ、はっきり申し上げて。その程度の感覚で

リニアを推進させるという意志があるならもっと丁寧なことやってくださいよ。

(黒澤委員長)

はい、長野県さん。

(長野県／田中課長補佐)

ご指摘の通りでございますので、丁寧に調査させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(寺沢委員)

迅速にお願いします。

(黒澤委員長)

信号機に関しては公安委員会と、という事でありますけれども、調整できるかどうかということですが、出来なければ、今の機会ではできなければですよ、出来るようにしていただきたい、うまく通るようにしていただきたいという事ですから、機器を変えるなり更新するなりという、渋滞回避をスムーズに通るような形をお願いされているので、ぜひそこら辺をくみ取っていただければありがたいなと思いますので、今の機械ではできませんという答えは望んでおりませんので、よろしくお願いいたします。他にご発言ございますか。

(北原委員)

それでは、ちょっと何点かお願いをいたします。高森町、ちょっと今日きつい事を言わせてもらいます。今日、あなたは一番最後に着座されましたね。記憶にありませんか。JR東海さんは全員揃っている。松川町も。あなたは、松川町にお願いにくる人間でしょ。本来はここに座って、我々を迎える立場ですよ。違いますか。だからそういうところに誠意がないと、こういう判断をされるんです。

前からもこの話は出ていますが、松川町には残るものは何があるか。住民を騒音と埃だけです。何もない。もう今現在、高森町と松川町を比べれば、はっきり、進捗状況を見たらはっきり分かりますよね。犠牲になっているというこの状況をよく把握してください。それが一点です。

JR東海さん先日ちょっとお話をいただきまして、車の件について対応していただきました。それで、私がお名前等をあげた会社につきましてはチェックさせていただきましたが、きちっとされております。ただ、同車両で全然変化がない車両があるんですが、こういう点はどうなんですか。

毎回お話を聞く限りでは、運転手一同がドライバーに対するミーティングをやっていこうという中で、統一することは出来ないんですか。今、出発点が一番大きな半の沢等々であると思うんですが、そういう伝達とかそういう話ってできないもんですか、会社が違えば。昨日お聞きになって分かると思うんですが、地元の皆さんはダンプはみんな地元の車でもリニアの車という感覚なんです。私も見ているんですが、地元の車でも相当暴走の車が数台あります。本当にひどい車があります。でも、やっぱりそういう告知をしてあることによってJRさんの車に対しておっしゃる、行き届いた指導それから違反等していないという事をはっきり申し上げる状況に、それを言いたいがために出たと思います。やっぱり、地元の車と差をつけておかないと何かの時に、地元の皆さんの見方はダンプはイコール、リニアの車だと。そこだけちょっと今一点確認をしていただいて、ひとつのものに統一をしてい

ただきたい。これからだって、飯田工区、豊丘工区含めてもっとダンプが増えるんですよね。そうした時に、もう同じ統一でいいのではないかと思うんですが、その点はどうなんですか。

（黒澤委員長）

それでは、JRさん。

（JR東海／水上分室長）

ご意見ありがとうございます。大鹿分室長の水上でございます。いただいたご意見でございますが、これは兼ねてからダンプの表示についてご意見をいただいたところでございます。

ご指摘いただいたところはすぐに改善は出来たんですが、ダンプはかなりの台数を依頼しており、会社が色々ある中で、その統一を図っているところです。大鹿からのダンプは、伊那山地トンネルの青木川という飛島JVの車両と、それから南アルプストンネル長野工区の鹿島建設JVから出てくるダンプ、併せて百数十台ダンプがございます。いまもまだ増えている状況です。従来から走行しているダンプもありますが、番号が何かと分かりにくい状況になっております。この間、ご指摘いただいたところの中には、高森町事業は青いステッカーと番号を統一して記載をしました。一方で、中央新幹線のステッカーについては長い番号がついているものもあれば、短い番号だけついている車両もあるという事で、統一が図られていないのは事実でございます。この機会に、全車両を同じような形で表示をしていきたいと考えておりますので、そこは改善をさせていただきたいと思っております。

（黒澤委員長）

高森町さんのほうは発言ありますか。

（高森町／野沢課長）

はい、ありがとうございました。おっしゃる通り、この前列並んでいる席の中で私が最遅参であったと思います。できるだけ皆様をお待たせすることを、お願いをする中でお待たせすることのないようにという事を、いま改めて、またご指摘をいただきましたので、努めてまいりたいと考えております。ご指摘をいただくような事になりましたことにつきまして、お詫びを申し上げたいと思っております。申し訳ございませんでした。また、ご指導いただきましてありがとうございました。

（北原委員）

あなたは、来賓じゃありませんのでよく理解してください。

（高森町／野沢課長）

はい、ありがとうございます。

（北原委員）

JRさんのほう、分かりました。早急に対応してください。やっぱり、車が増えるっていう今の話、我々は認識していますが、先般お話ししたように、出るもの早く運んで早く終わってしまおうという事を考えていただきたい。それと、先ほど洞新線でしたっけ、出口のところおそらく相当大変だと思う。カーブの所、大型車だとたいてい頭をセンター割って出てくる。すぐその回った先に、ダンプが

出てくるという構図になると思うんです。かなり厳しいですよ、あれは。そのくらいなら、本陣の方に回ったほうがまだ安全です。鶴部の信号機はJRさんご存知だと思うんですが、ちょうど午後2時とか3時の時間が西日の太陽がちょうど運転席が真正面にきます。そうすると、あそこの信号機は全然わからない。赤信号を2台3台通過する車が時々あります。それくらい鶴部の信号機というのは非常に見にくい信号機。そこは通過したとしても、先ほどの先ですね。今度の新しい橋の先の道路のジョイントというか、いっぺん交通量調査とか時間帯もあると思います、ちょっとやっていただきたい。

(黒澤委員長)

よろしいですか。ただ今ご指摘の部分について。

(JR東海/太田垣課長)

おっしゃっている所が一番私どもも注意しなければいけない所だと思っております。交通量調査については、藤森交差点で実施しておりますので、そのデータも分析して対応を考えてまいりたいと思います。

新しくできる交差点の設計においては、車両の軌跡等も確認して警察にも見ていただきながら、計画をしているところもございます。特に慎重に計画は立てていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(北原委員)

もう一点ちょっと松川町にお願いをさせていただきたいんですが、この工事というのは、一応町発注の工事になるんですか。例えば、工事期間中というのは大型車をその車両だけを通すという工事はできませんか。状況的に、恐らく、町発注ということであれば、業者は工期があるなか工事に着工していくと思うんですが、最短でやっていただくという形で町としてお願いをするとか。例えば、車両が原則として何台という形でも、調整はできると思うんです。もう、新井の交差点を少しでも減らすという方法は、それしか方法がない。

それともう一つ最後に小沢課長、やっぱり皆さん昨日も指摘をされていましたが、頭を下げるというその状況は決して好ましくないと思うし、やっぱり町長に頭を下げては、これは最悪だと思うんですよ。やっぱり言葉で発したことについては、今後責任を持って対応をしていただきたい。これを町のほうにお願いします。

JRさんにもう一点お願いします。最後に、松川町には本当に恩恵がないという事で先般、寺沢さんとも話をしたんですが、JRさんが広報がありますし、ぜひ工事が終了するまでの間に、松川町のPRを新幹線の中でも結構ですから、告知をして最低、せめてもの松川町というものを告知していただく旨をお願いして、終わりにします。

(黒澤委員長)

それでは最初に、松川町のほうから。小沢課長。

(小沢課長)

ありがとうございます。洞新線に関しましては、舗装が全部完成するまでは9月は越えると思って

おります。ですので、業者の皆さんには、構造物ができて路盤ができた段階でダンプが通れるようでしたら、JRのダンプのみという形でその道を通るようにということをお願いをしているところです。確実にアスファルトができて白線を引いて通れるまでではなくて、前段で通れるようになれば気を付けながらそのルートを使いたいと考えております。それから、3月に終了したいという中で、色々な要素が重なりまして発注がかなり大幅に遅れてしまいました。申し訳ございませんでした。以後このようなことが無いように頑張りたいと思いますけれども、不測な事態があったということでご理解いただきたいと思います。よろしく申し上げます。

（黒澤委員長）

JRさん。

（JR東海／太田垣課長）

私どもの営業の媒体で、この松川町をPRというようなご要望だったかと思います。今ちょっとコロナ禍でなかなか私どもの営業も難しいところがありますが、例えば、これまでに大鹿村とは以前もやらせていただいたんですが、旅行商品をタイアップするなど、こういった形で村をPRするようなことも取り組みをやっておりました。松川町も同じように、これから段々コロナが収まってくれば、やれるようになってくるかと思っておりますので、検討のほうをうちの営業にも繋いでいきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

（黒澤委員長）

皆さん、松川町にもぜひ恩恵が得られるような形でお願いしたいという事だと思っております。JRさんにも是非とも前向きによろしくお願いしたいと思っております。北原さん、よろしいでしょうか。それでは、他にご発言ございますでしょうか。はい、西尾さん、お願いいたします。

（西尾委員）

時間が押し迫っておりますが、高森町さんにお伺いします。資料の1ページですが、運搬期間延長理由というところなんです。「当初の想定よりも運搬車両台数が少なかったこと、掘削耕土想定より多く、」とあるんですが、当初の想定よりも運搬車両台数が少なかったというのは、確保できなかったという意味なんですか。

（高森町／野沢課長）

はい、ありがとうございます。端的に言って、そういった事でご理解いただければと考えております。今現在、この管内で多くの公共事業が進む中で、運搬車両の台数が、先ほどJRさんのほうからお話がありましたが、多くの県外のかたも含めてご参入いただいております。その中でも、なかなか確保が出来なかったということで、運搬が進まなかったという事は一つの要因になっていると考えております。

（西尾委員）

ありがとうございます。見通しが甘くて当初予定した台数を確保できなかったんで、運搬が遂行できなかったというのを、明確にしたほうが誠実じゃないかと思うんです。これは私の感想です。それ

から、掘削耕土が想定より多くとあるんですが、具体的にはどれくらいの立米数の耕土が多かったんですか。

（高森町／野沢課長）

はい、ありがとうございます。こちらにつきましては、およそ1万立米ほどの量が、耕土としては多くなっているという結果になっております。こちらにつきましては、事前に地質調査などを行わせていただきながら、その層厚というものを想定してきたわけですが、はんだんげんということもありまして箇所によってかなり地層面の波が大きくあり層厚が想定より上回るという箇所がございました。そんな形の中では、先ほども申し上げた、土量が少し増えたという形になっているところです。よろしく申し上げます。

（西尾委員）

9月、あと2ヶ月で終わると皆思っていたわけですね、新井の皆さんは。それが、もしかしたら3か月延びるかもしれないと、こういう説明ですが。なんというんですか、大きなことと言えば地震の大津波から始まって、みんな想定外・想定外、予想していませんでしたということで、済んでますよね。これは別に高森町役場の人を責め立てるつもりはないんですけど、なんとなく当初の想定よりも運搬車両台数が少なかったという表現の中に、にじみ出ている、そういう感覚っていうものがあるんじゃないかと感じるので。お隣の町の役場の皆さんを非難するつもりはないんですけど、改めてそういう事で、車両の運搬の基地、大鹿村それから全ての台数が松川町を通るという事を、真剣に考えてちょうだいねということでございます。以上です。

（高森町／野沢課長）

はい、ありがとうございます。心情といたしましては皆様もう少し厳しいことをおっしゃりたいところもあるかという中で、そんなご発言をしていただけたのかなと感謝しております。自分どもが、想定を決して緩やかに見積もったというつもりはないですが、これからも、今後ともこういった事業に関して、近隣の皆様に与える影響といったものは真摯に受け止めていかなければいけないという事を、改めてご指摘いただいたのかなと考えております。また、こういった事業に対しまして、参考にしてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

（黒澤委員長）

西尾委員さん、よろしいでしょうか。

（西尾委員）

結構です。

（黒澤委員長）

寺沢委員、どうぞ。

（寺沢委員）

今のことに關してですけど、高森町さん今おっしゃった、西尾さんがおっしゃったことにつながりがあるんですけども。車両台数が確保できなかった、それはもっとさらに突き詰めていくと、どういう状況でしょうか。

(高森町／野沢課長)

はい、この期間、この区間、昨年お願いしてからのこの区間で、150台／日の運搬をさせていただくというお願いをいたしました。それにあたって必要な台数はこれくらいといったことを、JRさんとも協議をさせていただきました。その中で実際の確保として、運搬するための車が不足したというところでは。

(寺沢委員)

ということは、JRさんからお願いしたにもかかわらず、車が回ってこなかったという事ですか。

(高森町／野沢課長)

これにつきましては、全体のその他の車両も含めて一括して調整をさせていただくという事が、一番つつがなく台数を調整できる、あるいは運搬計画の皆さんのコントロールができるという事で考えてまいりましたので。ただ、どうしても物理的にはそういった環境が確保できなかったという事は、起こったことかと考えております。

(寺沢委員)

私の質問したことに回答になっていませんけれども、これ以上やっているとお小言いただきそうなので、ここまで止めますけれども。台数がとれなかったという事だと、それは大きな問題ですよ、JRさん。ケッチンが松川町が被ったと。これですよ、寄り添っていないのは。高森さんはいいですよ。車がこなかったって言えば。それが来なかったのは何ですか、JRさん。

(JR東海／水上分室長)

はい、ご意見ありがとうございます。色々理由はございます。トンネル掘削については、伊那山地トンネルと南アルプストンネルを掘削しておりますが、土の状況、山の状況によって、出てくる土の量が変わる場合があります。だいたい想定はするんですが、それ以外で発生土置き場として他のいろんな所で運用していく中で、そのボリュームが出てこなかったというのも一つございます。原因は、トンネルの土が十分に全ての期間において出てこなかったという事、それから今年の冬は雪が多かったので、冬期において運搬できなかった日が多かったという事、それから伊那の工業団地に運搬しておりますので、そちらの割合といいますか、同じように運搬しているわけですが、その量が足りなくなったという事だと思います。

(寺沢委員)

最後にしますけど、いつもおっしゃっていただきましたけど、キャパは確保してあったにもかかわらず、キャパを利用できなかった。これは大きな問題でしょう。それだけの台数を確保してあった。それが確保できなかった。そういうことは往々にしてあるとは思いませんけれども、それだけ密に計画を立ててやってらっしゃるじゃないですか。それなのに、まかないきれない。これは大きな問題で

す。以上です。

（黒澤委員長）

はい、ありがとうございました。時間も経過をしております、9時まであと8分程度になっております。先ほども申し上げましたけれども、今日はこの会場という事で延長ができませんので、ご理解をいただきたいと思っております。ご発言ございましたら、まだ受け付けたいと思っておりますので、いかがでしょうか。よろしいですか。それでは、質疑の部分についてはこれで終了とさせていただきたいと思っております。では、4番のその他で、松川町のリニア関連事業についての説明をお願いいたします。

松川町役場：小沢課長説明

（黒澤委員長）

会議事項が終了しておりますので、私が司会進行をすることはできないところも続けてしてしまいました。会議事項は皆さんご協力ありがとうございました。それでは、町のほうに司会を戻しますので、よろしくをお願いいたします。

（小沢課長）

それでは、その他は今ご説明させてもらった内容でございます。報告ですので、もうすぐ9時になりますので、質問の関係はまた役場のほうにいただければと思っておりますので、よろしく申し上げます。前河原道路に関しましては、随時、報告させていただきます。それから、大変申し訳ございませんでした、2ページにあります委員構成ですけれども、ちょうど真ん中にあります高坂龍夫様。理事が代わりまして、今回から出席していただいております。先ほど紹介が遅れまして大変申し訳ございませんでした。

（宮下町長）

大変長いたくさんのお話をいただきまして、ありがとうございました。本日の話もそうですし、昨日の住民説明会、また去年の経過もありまして、本当に様々な住民の皆様のご不安を聞いてもらいました。本当に簡単には呈しがたい気持ちをもって私もこの場に臨んでおります。ただ、今回JRから求められております7月1日から増やしたいという話でございますが、それに伴って今回豊丘村が70台の受け入れという話をさせていただきました。これは、上新井の交差点の負担軽減のために、豊丘村が寄り添っていただいたというところもありますので、それは本当に感謝しなければいけないことだと思っております。これを受けまして福与地域、また上新井の地域に説明をご理解を求めながら、リニアは私たちの地域の一員としては、ある程度条件を付けた上で今回の台数を増やすことは、受け入れざるを得ないと私は考えております。これにつきましては、松川インター大鹿線や古町境の沢線の沿線にお住いの皆様をはじめ、本当に町民の皆様全体に理解をしていただかなければいけないことだと思っております。今回、条件でお願いしたいことが、ひとつ目でございますが、安心安全なダンプの運行という事をこれまでも増してさらに厳しく注力をしていただきたいと思います。JRの皆さん、交通安全対策だけではなくて、ダンプ運転手への改めての安全講習とか、小学校での交通安全教室などを具体的な対応を示してもらおうよう今後も協議をしていきます。また、役場がいま抜き打ちで行っておりますモニタリング調査でございますが、9月まで間、まだ回数を増やす

ことにいたします。ふたつ目に条件でございますが、先ほど大島区長の話の中にもありました。台数を増やすという事に対しての、町民への周知期間をしっかりと確保していただきたいという事でございます。今日はここに至ったということで、希望通りさっそく7月1日から台数を増やすというわけにはいかないと思っております。本日を境に少なくとも2週間の周知期間を取っていただきたいと思っております。その周知の方法につきましては、ちょっと町と協議していただきたいと思っております。以上、二点申し入れたうえで、台数を少し増やしていくというところをお願いをしていきたいと思っております。が、基本的で根本的なことですが、それを強く認識をしてもらう、今の二点のことが本当に大切だと思っております。また、高森町さんからの話がありました。日程が延びるという事につきましては、先ほど課長からもありました。まずは、関係する地域の皆様に説明会の中でしっかりと周知をしていただくという事が必要だと思っております。地域の理解のもと、安心安全にリニア建設工事を進めるという事はJRの皆さんの理念だと私は理解をしておりますので、引き続き、町の申し入れを真摯に受け止めていただいて、安全な事業の進捗を図っていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(小沢課長)

それでは、5番の閉会のごあいさつをお願いします。下澤副委員長をお願いします。

5. 閉会

(下澤副委員長)

長時間にわたりご審議ありがとうございました。それでは、これをもちまして閉じさせていただきます。ご苦労様でございました。